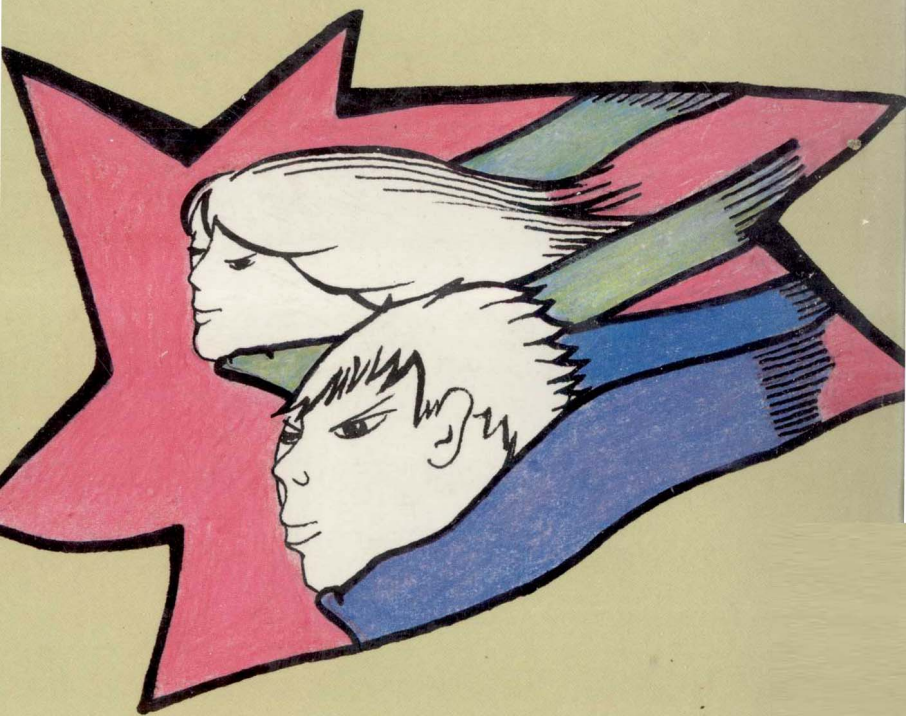


中学生ノート

思春期を生きる

坂本光男 編著



RJC青春ライブラリー・シリーズ②

(編 者)

坂本 光男 (さかもと みつお)

1929年、埼玉県に生まれる。

埼玉県浦和市立原山中学校教諭

全国生活指導研究協議会常任委員

主な著書

教師の指導力を高めるために (明治図書)

非行・問題行動をどう克服するか (")

親は子に何を教えたらいいか (")

教えること・育てること (")

中学生ノート ——思春期を生きる

1984年1月30日 初 版

1984年4月15日 第2刷

編 者	坂 本 光 男
発 行 者	柳 沢 明 朗

郵便番号101 東京都千代田区神田神保町3-17-28

発 行 所 株式会社 労働旬報社

電話 東京 263-7141 (～5)

振替番号 東京 0-180374

印刷 真珠社 製本 坂本製本

小社あて事前がありましたらおとりかえいたします。

場合を除き著の一部または全体を無断で複写複製(コピー)して配布
事前に承諾を法律で認められた場合を除き著作者および出版社の
求めください。なります。小社あて事前に承諾をお求めください。

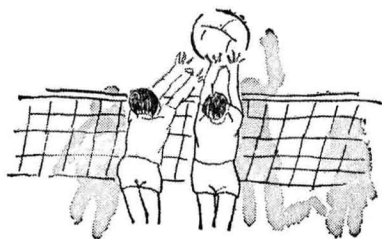
中学生ノート

——思春期を生きる——

坂本光男 編著

労働旬報社

中学生ノート思春期を生きる／もくじ――





真^まっ赤^かな中学時代に……プロローグ

11

I 中学時代とは何か

一、岸^き田^{しだ}君は三年生に

——弟は新一年生……

21

なくなったボタン

弟の作文

23

岸田君のあせり

学び合う友

28

班長立候補への迷^{まよ}い

30

二、浩^{こう}一^{いち}君の新体験

33

母の背^せたけを追^おい越^こした

33

浩一君一家の歯^は

36

“春のめざめ”——順^{じゆん}子^こさんの感^{かん}触^{しよく}

38



近視になっちゃった
姉ちゃんは太りすぎ？

▽先生のノート

- ・ 中学校とはどういうところか
- ・ そこで体得すべきことは何なのか

Ⅱ いちばん興味のある話

——性と男女交際——

一、由美子の日記から

いちやつく二人

今日はほんとうによい日でした——

二、ぼくらの性と愛

ぼくのパンツはぐっしよりぬれていた……

父の求愛

励まし合う二人

68 65 63 60 57 57

46 43 41



▽先生のノート

- ・ 男性や女性の「性」とは何だろう
- ・ 男女交際とはどうあるべきか

Ⅲ 正義と友情

一、正義をつらぬく

乱れとぶ給食のパン

カンニングの強要

先生がもつとがんばって――

小さな正義

ちからを合わせてやればできる

二、友情とは

全員で手紙

青天井の夢

カンパつけ

真の友情とは？



対決

▽先生のノート

- ・正義って何だろう
- ・友情とはどういうものか

IV 友愛と連帯の深い学級・学校に

一、自分が小さく見えました……

——幸代さんの成長

私はひとりぼっち

悪いのは私たちだ

友だちだから

勇気あるひと言

二、活気ある豊かな学級

六班はキレイだ

くさったみかん

さわやか球技大会

137 134 132 132 129 126 123 123

121

112 108



さよならシンナー
お別れハイキング

三、生徒会って何だ

学年のリーダーたち

決めたことは守ろう——林間学校で

生徒会役員に立つ

見るよりつくる文化祭

非行問題にとりくむ

四、人としての土台をつくる部活動

大沢君の誓い

「私のクラブ」

レギュラーになれなくても

「根性を養う」

先輩と後輩

▽先生のノート

170 167 164 162 159 157 157 155 152 150 147 145 145 142 139



V 学習にいどむ

・学級・班、生徒会、部活動とは何か
・それらを通じて体得するものは何か

一、リンリン学習もいけれど……

あれから一年。“二年生の決意？”

リンリン学習

「塾じゅくの宿題は学校で」——大井君おおいの内職ないしよく

盗み聞きぬす

二、授業をつくるのは私たち

パンダのイラ立ち

学年集会

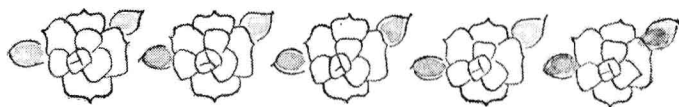
わからないところが“わからない”

小説が読みたい

三、学び合いの魅力みりよく

泣く子の気持ち、オレわかるよ……

206 206 201 199 195 192 192 189 186 184 181 181



「今こそ平和を」

四人組学習会

はじめての満点

あぜくらづくり
校倉造

四、昌美^{まさみ}のふんとう

困った思い出せない！

夏休みの宿題はガッポリまとめて

宿題と自主課題学習の両立

▽先生のノート

・何をどう学んだらよいのか

・学ぶ姿勢^{しせい}はどうあるべきか

終章 かしこくたくましい人間に

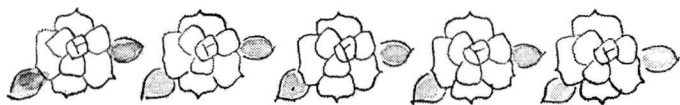
返事してよ お父さん

仕事の中で学ぶ

母を亡くした由佳^{ゆか}さん

242 240 237

229 226 223 221 221 218 215 212 209



百円ちよんずつの貯金
母と弟への年賀状
あとがき

装き幀び
さし絵
浅井 笙子
アルファデザイン

251 247 245



真^まっ赤^かな中学時代に――
――プロローグ

ぼくは、あと十日ばかりで中学を卒業する。

高校受験も終えて、やっとのんびりした時間が持てるようになった。昼間は友達ちと何とか過ごしたが、夜はにわかひまに暇になってしまった。それで考えたが、「答辞」を書いてみることにした。もちろんぼくなんか、代表で答辞を読めるほどの人間じゃない。だから誰かに対してというのではなく、自分のための答辞というわけだ。

なんといつても一番は、母と口げんかしたことの思い出だ。

勉強しないでテレビを見ていたら、また母の

「勉強なさい！」

と言かなきう金切り声。ぼくはいら立っていた時だから、

「自分でやるから放はなつていよ」

と、言い返した。母もその日は、何かでいらついていたらしい。

「ならばそれだけのことをやってみせなさい！」

と、ヒステリーだ。それでついぼくは

「うるせえなあ。うるさ婆さん」

と、言ってしまった。母はぼくに迫^{せま}ってきて

「なんですか！ それは、親に向かつて言うことですか！」

と、ぼくの教科書で頭を打とうとした。一瞬^{いつしゅん}、ぼくは手でよけたが、その手が逆に母の顔にあたってしまった。母は、走って隣の部屋^{となり}へ行った。ぼくもぼうぜんとして立っていたけれど、何が何だかわからなかった。

「ぼくが悪いんじゃない、母が悪いんだ」

と、その時はしきりに考えた。

が、今考えてみるとそうじゃない。もっと高校が多ければよかった。一点、二点を争うような受験地獄^{じごく}、一流、有名の高校へばかり目を向けている世の中がいけなかったんだ。そのせいで、ぼくも、母も、おかしくなっていた。だから卒業式の日には言おう。

「悪かったね、あの時は……」

と。まったくあれは、ぼくにとって灰色はいいろの時期だった。

そうだ……常木君つねきは今どうしているだろう。遠い北海道で、元気になったかな。

運動が苦手にがてで気の弱かった彼は、どっちかというといじめられっ子だった。あいつがすぐ泣くからいけないんだ。それでぼくが「泣くな」と言ったら、どういうわけか、いつもぼくを頼たのってくるようになった。

半分は気の毒どくで、半分は面倒めんどうだったけど、ぼくの班に入れていっしょだった。それからぼくも真剣しんけんになって、いじめる相手とやり合ったが、あれがきっかけだったな。「この学級から暴力をなくそう」と先生が提案ていあんして、ツッパリ連中もまともになりはじめた。だからもう大丈夫だいじょうぶだったのに、急に転校して行ってしまった。

常木君よお、君にとっては褐色かつしよくくらしいのクラスだったかも知れないけれど、あれからは黄色くらしいになったんだぜ。

でも、ぼくにとっての部活動は赤色だった。燃えたんだ。